



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第  
2号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第2号). 泌尿器科紀要 1959, 5(2): 124-124

ISSUE DATE:

1959-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111712>

RIGHT:

## 編集後記

医学に関係のある領域は甚だ広くて多くの問題がある。その中で最も重要なのは、学問としての医学そのものである事は勿論であるが、それに優るとも劣らず重要なものとして、医育制度、研究組織、医療制度の問題がある。例えば、医科大学のあり方はこれでよいのか、インターンや国家試験等には問題はないか、新制大学院制度は既に充足しているが、このままでは不都合はないか、学位制度との関係はどうなるのか、また学会費や科学研究費に問題はないか、文部省と厚生省との間はどうなっているか、専門医制度に就ては特に厚生省が熱心であるが、もつと広く文部省、大学、学会、医師会とも密接に話し合う必要はないか、更に医療制度に於ても問題は山積しており、健康保険のあり方、即ち経済的制約と本当の医療、医師の報酬との関係に就ての十分な検討が必要でないか、各種医療機関が無統制に乱立している事、即ち健保に縛られている医療機関と健保に全く関係のない機関とが存在している事、種々の団体や機関、会社等が勝手に病院を作り、医師を雇って独自の診療を行っている事等に問題はないか、医師の身分はこれでよいのか、医師の待遇、更に開業医と勤務医の待遇、医師でない医療関係官吏や政治家が医師或は医療制度の上に立つて医師に命令したり、駆使したりすることはないか、これらのどの一つでも医界と国民医療にとつて極めて重要な課題であつて、各方面から十分に検討されねばならぬ事柄である。然るに現実には医療に関係のある汎ゆる方面から充分な関心を払われているであろうか。残念ながらこれらの問題は主に厚生省が主導し、これに対して医師会が反応を示しているような現状であつて、大学や文部省はのんきに構えているようである。大学は学問の研究が第一であるが、特に臨床医学には医師に関する問題や医療制度もそれに劣らず重要である。過去に於て大学は健保問題に関心が薄かった。その間に厚生省はどしどしと計画を実行した。今になつて学界が騒ぎ出しても、時既に遅い感がある。上記の諸問題にも同様の心配がある。そこで大学の当事者もこれらの問題と取り組まねばならぬ事は明らかであり、それには一身の得失を顧みずに、勇気をもつて主張出来る人々に期待せねばならぬ。

### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例. 中野：泌尿紀要、1：110、昭30. Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部